2013.1.20(日)　月刊「磁津通信」（毎月20日発行　郵送580部　磁津楠等宅配170部 ）No.34

磁津通信

磁津環境学校
編集・発行
萩森　繁樹
〒510-0863
磁津南町2839
野田之一さん気付

今年もよろしくお願いします

支え無くして今日はない

年が明けました。いそかんが4年目にはいっていきます。皆さんに支えられてここまで来ました。今回のカンパのお願いにも本当に機敏にたくさんたくさんの方々からおびただしい浄財を寄せていただきました。本当に感謝です。

いそかんに参加し続けてくれる子たち、いそかんに参加して片付けをしてくださる方々、来れないと電話してくれる子、参加の感想を必ずのようにメールしてくれる人、いそかんにアイデアを出してくれる人、内容とレベルを創って下さる講師陣、飾らない応援をしてくれる旧友悪友、遠く北海道からうまいもんを贈ってくれたり、最新情報を流してくれる東京の方々…、皆さんが心の支えです。

去年１年だけでも出会いは私の宝です。取材に来て少ない参加者でもカメラを回し、会社のブログで励ましてくださるジャーナリスト、父と子でいつも来てくれる楠の親子、孫を連れて常連になってくれた方、友だちが友だちを呼んで楽しんでくださるオバサンたち…、その笑顔が支えです。

世界を見すえて

もともと、磁津通信で世界を取り上げてきたのは「地球規模で見て、足元で活動する」ためでした。とりわけアジア・アフリカに目を向け、現地で見た実際とこの日本との関わりを提起して頂くためです。

今回の山下さんの報告はなかなか行けないタンザニアの自然・文化との違いを通して日本と私たちを見つめ直したものです。「28歳の女性」の連載は鍛えられた自立した女性の観察眼でベトナムを通して日本のあり方、私たちの働き方を検証してくれています。いつも世界を見ていたい。それは成長点でもあるAsia, Africa, Latin America (AALA)でありたいと思っています。

希望は磁津の中に

一方、ここがフィールドと決めさせて頂いた磁津はなんと情厚き地でしょうか。

先日もH君と話しました。相も変わらず鯨船と漁師町磁津に対する誇りのような思いを聞き、ああ磁津の希望はここにあるなあと熱く思ったのです。それだけではありません。宅配して一銭もかかっていないのに磁津通信に今回も多大なカンパを寄せてくださる何人もの磁津の中の方々、いつどんなときに訪ねても必ず上にあげて話をしてくださるお家、気さくに何でも聞いて下さり甘えられる船大工さん、いっしょに市役所の方と歩いてくれざっくばらんな認定患者の方、朝早くから暖房して部屋を暖めいそかんのみんなを迎えてくださる漁協組合長さん、酒を飲んで兄貴みたいに話せるダンプの運チャン、何かあればここに行けば磁津のことはリセットできる人、面倒ないそかんの回覧板を毎月回して下さる自治会長さんたち。何とありがたいことでしょう。

でもそれらは私が感じただけのこと。磁津の皆さん同士はもっと長く、もっと強くつながり、この町を何とかしようと思っていられる。

ここには人情と温かさと闘いの伝統がある。自然だって、いそかんが取り上げるまでもなくまだまだ確実にある。この町にまだ通わさせて頂けるなら、もっと話したい学びたい事がある。

明日から、またよろしくお願いします。

《　連絡・情報提供先　090-4269-0965　hagi1922@tcp-ip.or.jp 磁津環境学校情報室　》